

判読解析の応用、不整脈など

日本不整脈心電学会 心電図検定委員会委員

埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科

池田 礼史

心電図は循環器診療のみならず、救急医療、周術期管理など医療の主要現場における最も基本的かつ重要な診断ツールであり、その判読能力は医療者の必須の技能と言えます。

心電図判読精度を高めるには、ある程度以上の学習と臨床経験が必要ですが、このハードルが高いため多くの医療者が心電図に対する苦手意識を抱いていると感じます。

心電図検定試験は近年 SNS などでも注目の試験ですが、この試験にチャレンジすることは学習の機会となり、不足する臨床経験を補うために極めて有効な手段と考えます。この講義では、心電図検定試験対策として、日常診療で遭遇する頻度の高い不整脈および代表的な異常所見を体系的に整理し、基礎から中等レベルまで無理なく理解できる構成としています。私は後半パートの“判読解析の応用、不整脈など”を担当し、臨床現場で即戦力となる“異常所見の見抜き方”に焦点を当てます。

具体的には、徐脈性不整脈、頻脈性不整脈の分類と鑑別、電解質異常、ST-T 変化などの試験で頻出かつ臨床上も重要な項目を取り上げます。また試験対策として、誤答しやすい典型的パターンや問題文の読み解き方、確実に得点するためのプロセスをわかりやすく解説します。受講者が心電図を構造的に理解し、不整脈・異常所見を自信をもって読めるようになることを目指します。